

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H03941

研究課題名(和文) 家族のダイバシティに対応するヘルスクオリティ・アウトカムリサーチの確立

研究課題名(英文) Establishment of Health Quality &amp; Outcome Research for Diversity of Families

研究代表者

上別府 圭子 (KAMIBEPPU, Kiyoko)

国際医療福祉大学・大学院・教授

研究者番号：70337856

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,940,000円

研究成果の概要(和文)：5課題の各研究チームにて、ヘルスクオリティ指標の作成を目標に研究を実施した。

[1] 形成期・発展期の家族 [2] 最も弱い者(新生児・重症心身障害児・認知症高齢者)の家族 [3] 小児慢性疾患患者の家族 [4] 精神健康上困難を経験した人の家族 [5] パートナーから暴力(IPV)を受けたサバイバーが新たに創造した家族について、手記やインタビュー、ディスカッションを通じて、家族の価値観や、感情や支援のやりとりと葛藤、医療上の意思決定場面での家族の困難、自立/自律を促進する家族の特徴、疾患を有する人が嬉しく思う家族や周囲からの言動、支援者がもつ感情・態度や信念などを明らかにした。共通指標の作成は困難であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「家族の健康の質」の概念化・指標化は、それ自体、難しいが、近年の家族の多様化はその困難性に拍車をかけ、ますます複雑で困難な課題となっている。人々の健康な生活は、個人の健康改善は大きな要素ではあるが、周囲の人や家族員の健康犠牲の上に成り立つものではなく、家族全体のヘルスクオリティをアウトカムとして設定しなくてはならない。看護のみならず医療関係の研究は、疾患ごとの研究や発達段階毎の研究がほとんどであり、多様な家族について併せて検討する場自体、限られていた。本研究では5つの(家族)課題に分けてヘルスクオリティ指標を検討し、また併せて検討した点で新規性があり、アウトカムの作成に迫ることができた。

研究成果の概要(英文)：Research was conducted in each of the five research teams with the goal of creating a health quality index.

Regarding to [1] Families in their formative and developmental stages, [2] Families of the most vulnerable (newborns, severely disabled children, elderly with dementia), [3] Families of chronically ill children, [4] Families of people experiencing mental health difficulties, and [5] Families newly created by survivors of partner violence (IPV), through memoirs, interviews, and discussions, we identified family values, emotional and supportive interactions and conflicts, family difficulties in medical decision-making situations, family characteristics that promote independence/autonomy, words and actions from family and others that make the person with the illness happy, and feelings, attitudes, and beliefs held by supporters. Creating common indicators was difficult.

研究分野：家族看護学

キーワード：家族看護学 ダイバシティ ヘルスクオリティ アウトカムリサーチ

## 1. 研究開始当初の背景

人々の健康な生活は、個人の健康ももちろんその要素ではあるが、周囲の者や家族の健康犠牲の上に成り立つものではない。つまり、家族（全体）の健康の質（ヘルスクオリティ）をアウトカムと考えるのが適当である。では、家族のヘルスクオリティとは何か。これは単独でも難しい課題であるが、ダイバシティを大切にする現代社会においては、多様な家族に適用できるヘルスクオリティを求めることは、ますます難しい課題となってきた。本研究では、この現代社会の多様な家族に適用できるヘルスクオリティ、アウトカム指標の作成にチャレンジする。人々の健康な生活を実現するための看護の研究に、なくてはならないものであると考えるからである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の2点である。

- 1) 現代日本のあらゆる家族に共通するヘルスクオリティ指標を作成する（中核指標）。副次的な目的として、様々な家族におけるヘルスクオリティ指標を作成する（領域指標）。
- 2) 家族メンバーの各自から得たヘルスクオリティ指標の、統合解析・提示法を提案する。

ヘルスクオリティ・アウトカムリサーチは新たに拓く学問分野であり、学術的独自性がある。そして、上記の目的を達成する過程で、様々な学術的知見を創造する。まず、指標を作成するためには、目指す概念を明確化・言語化する必要がある。この作成プロセスにより、目指すものが可視化される。また指標ができあがったとしても、当事者の側からその概念を評価できるかについては、限界がある。したがって、指標の限界（どのような誤差や偏りがあるか）を明らかにしたうえで、統合解析・提示法を検討・開発する。

## 3. 研究の方法

5 領域の家族を設定した。[課題1] 家族形成期・家族発展期の家族、[課題2] 最も弱い者（新生児・重症心身障害児・認知症高齢者）と共に暮らす家族、[課題3] 小児慢性疾患患者の家族、[課題4] 精神健康の困難を経験している人の家族、[課題5] パートナーから暴力（IPV）を受けたサバイバーが新たに創造した家族の5 領域である。全体で目標を共有したのち、領域ごとに研究チームを編成して課題に取り組み、おりおり報告会を開催して、意見交換会を行いながら進行管理を行った。各課題で用いられた研究方法は主に、文献レビュー、手記の分析、家族や専門家へのインタビューとトランスクリプトの分析、患者市民参画（Patient Public Involvement：PPI）である。

## 4. 研究成果

概要として、各領域でのヘルスクオリティ指標に近づいた。しかし、各領域において重視するものが違い、いきおいアプローチも異なったために、中核指標には到達しえず、現段階では、中核指標を見出すのは困難であると言わざるを得ない。

[課題1]①形成期の家族・・・春名(分担研究者)・米澤(研究協力者)

妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を提供するため、子育て世代包括センターが

全国展開され、母親や家族への地域での包括支援体制が構築されつつある。家族形成期において、サポートが必要な家族に関して、サポートの受け手、サポート提供者（支援者）の双方に役立つスタンダードが必要となってくる。産後の継続ケアにおいて、母親や家族はどんな子育て支援・サポートを求めているのか、支援者はどのような方針で、母親や家族をアセスメントし、支援をどのような時期・頻度で提供しているのか、支援する上での困難や対処については明らかではない。また、個々の家族が持つ多様な価値観や求めているところと支援者のアセスメントや方針にギャップがないか、ギャップにどのように対処しているかについても明らかではない。

そこで、「新生児訪問指導」・「乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)」といった子育て支援サービスを受けた児の両親と、実際に訪問などの支援を提供している助産師・保健師を対象とし、インタビュー調査を行った。機縁法・教室 HP での公募によって研究対象者を募集した。助産師6名、保健師1名、母親7名が調査に参加をし、インタビューを行い、その結果、COVID-19 感染拡大期の東京での新生児の育児について、「妊娠中から産後まで様々な育児支援の中止」「感染への不安による影響」「夫の在宅勤務による利点と困難」「様々な支援が中止になった影響」「オンライン支援の利点と困難」の5カテゴリが得られた。中止による影響として「地元のつながりが作れない」「専門家に会いにくい」、「外部の支援が得られない」「沐浴や授乳手技が習得できていない」等が語られた。また、オンライン支援に関して、「本当に相談したい部分は便利になった」一方で「相談窓口が信用できるか戸惑う」「電話・オンラインでのコミュニケーションは難しい」「赤ちゃんは対面で見てもらうことを期待」すること、「オンラインの方がむしろ参加しやすい人がある」一方で「継続したつながりのきっかけにはなりにくい」という語りが得られた。

以上のことから、コロナ禍では、母子保健システム側も親側も影響を受けるため、平常時とは別の指標の導入の必要性が示唆された。

## ②発展期の家族・・・戸部・大城(研究協力者)

出産後 2 年以内の夫婦を対象に（女性7名、男性3名）インタビューを行った。その際、自身が感じることと共に、相手を感じることも予測して回答してもらう質問項目を作成し、夫婦間の葛藤や意識のずれについて気づき、表出しやすいようにした。

結果、発展期の家族では、感情統制や支援の主観的授受が指標になることが示唆された。

## [課題2]最も弱い者(新生児・重症心身障害児・認知症高齢者)と共に暮らす家族・・・佐藤(分担研究者)・米澤・福井(研究協力者)

新生児や重症心身障害児(者)（以下、重症児者）や重度認知症高齢者など、意思表示できない者が家族にいる場合、様々な意思決定の際に本人の意思が不明であることから家族は特有の困難を体験すると考えられる。そこで本研究は、重症児者の家族が意思決定にあたり体験する困難を明らかにする。

医学中央雑誌で「意思決定 AND (重症心身障害者 OR 重症心身障害児)」(統制語および全フィールド)を検索し、原著論文に限った38件の文献を得た。抄録および全文を読み、家族

の意思決定について述べられている 14 文献を対象とした。

困難は 9 文献で述べられており、25 の困難が抽出され、5 つに整理された。(1) 医療者との信頼関係の不足／過剰。日頃からの医療者への不信や、医療者を信頼して任せきっているという行動があった。(2) 必要な情報が与えられていない。差し迫るまで医療者が選択肢を提示してくれないこと等が挙げられた。(3) 決めたあとのこと & 決めなかった場合のことに對する不安。迷い・怖さ・見通しの立たなさ・恥・医療へのマイナスイメージなどがあった。(4) 気持ちがついていかない。特に短時間で決定しなければならない状況等が挙げられた。(5) 自分の価値観で決めてよいのか疑問。本人の意見を聞きたい、親としての価値観が邪魔、自分に尋ねないで欲しいなどの記述があった。

重症児者の家族が医療上の意思決定において体験する困難が明らかになった。時間的猶予のある場面であっても、必要な情報（情報が無く見通しが立たないことも含めて）が伝えられていないと感じられていた。意思決定を終えた後の家族が研究対象者になることで、医療者に好意的または意思決定後の経過に満足している家族の体験に偏っている可能性はある。新生児や認知症高齢者に関しても、同様なレビューを行った。

### **[課題3]小児慢性疾患患者の家族・・・副島・森崎(研究協力者)**

小児慢性疾患患者の家族におけるヘルスクオリティとして自立/自律に着目し、文献レビューを通して、「社会生活における自立・自律」と「医療・ケアにおける自立・自律」が重要であることを明らかにした。また「社会生活における自立・自律」と「医療・ケアにおける自立・自律」は相互に関連し、同時にアプローチする必要性が示唆された。一方で、どのような家族の特徴が患者の自立・自律を促進するのかは明らかにされなかった。この文献レビューでの課題を踏まえ、小児慢性疾患患者の疾患管理における親から子への役割移行プロセスに関するインタビュー調査を実施した。その結果として、「進路と病気との折り合いについて子どもと話す」「交際相手や結婚相手に子どもが病気について伝えることに対する不安」「病気と向き合う子どもの姿が嬉しくもあり苦しい」「命にかかわる話を子どもに伝えることへのためらい」など、様々な親の考えや思いが小児慢性疾患患者の自立・自律に影響することが示唆された。

### **[課題4]精神健康の困難を経験している人の家族・・・宮本(分担研究者)**

精神障害を有する人や、その人と共にいる家族のヘルスクオリティの維持・向上を考えるにあたり、精神障害を有する人と家族や周囲の人が良い相互作用を及ぼし合うことはその一助となると考えられる。そこで本研究では、精神疾患を有する人が、①家族や周囲の人からのどのような接し方を好ましく感じるのか（研究1）、②精神健康の不調を抱える友人に対して援助をする若者はどのようなアプローチをしているのか（研究2）、③精神健康の困難を有している人は親との関わりをどのように経験しているのか（研究3）を明らかにすることを目的として研究を行った。

本研究は、精神健康不調の経験のある者、精神健康不調の経験のある者と家族としてともに暮らした経験のある者も研究計画段階から参画し、PPI を実践しながら研究を進めた。

研究1では、精神疾患、特にうつ病または躁鬱病を有する人によって記述された闘病記を検索した。包含基準にのっとり、24冊の書籍のうち入手可能であった20冊から、精神健康不調があったときに勇気づけられたり、傷つけられたり、影響を受けた他者の言動を抜き出した。抜き出した文章を、誰のどんな言動によって、どのように影響を受けたのかがわかるように切片化し、特にどのような言動であったのかに着目しながらテーマ分析の手法により、質的に分析した。その結果、言葉や態度で思いやりや共感を示してくれる、日常生活のサポートをしてくれる、不調である自分を受け入れてくれる、病気がよくなるために協力してくれる、深刻になり過ぎずにいてくれるなどのテーマが抽出された。

研究2では、精神健康不調を抱える友人との関わりを経験がある者を対象として半構造化インタビューを実施した。関わりを経験が複数ある場合にはそれぞれについて尋ね、テーマ分析を用いてデータを質的に分析した。合計4名(20代前半、男性1名、女性3名)から10事例の援助過程が収集された。精神健康不調を抱えた友人を援助する過程では、友人が何か不調を抱えていると気づくと、自身の知識や経験などの〈個人の基盤〉を元にして、不調を抱えた相手と自身とが置かれた〈状況を判断する〉ことで、援助するか・どう援助するかを検討していた。その後これまでの検討を踏まえて多様な行動を起こし、相手からの反応や、相手の体調や相手との人間関係の変化から行動の結果をとらえ、自身の関わり全体を評価していた。精神健康不調を有する人に対する援助行動を起こすに至るには、精神疾患の知識だけでなく、当事者のリアルな姿や思いを当事者自身の発言として伝えていくことが、非専門家である若者からの援助を促進していく上での有効なアプローチ方法になりうることが示唆された。

研究3では、精神疾患を経験したことのある人で、精神健康の不調時に親と同居したことのある人を対象に、精神疾患に罹患する前後での親との関係の変化や、精神健康不調時に親との関わりをどのように捉えていたかについてインタビュー調査を行った。合計18名の参加者から親との関わりを聞き取り、現在分析を進行している途上である。

#### 【課題5】パートナーから暴力(IPV)を受けたサバイバーが新たに創造した家族…キタ・渡辺(研究協力者)

パートナーからの暴力被害者の手記やインタビューデータ、専門家の本、専門家とのディスカッションから、家族の逆境体験をもつ人に支援する際に、支援者がもちうる探求的な態度や信念の抽出を行った。その結果、〈「家族の逆境体験をもつ人」にわたしが向き合うベース〉では、【支援という場に降り立つ一人の人間としてのわたしとあなたを意識する】、【わたし個人の中にある、家族とジェンダーに関する当たり前の枠組みに気づいて外し、より広い社会的視点をもつ】など、〈「家族の逆境体験をもつ人」に向き合っている時〉では、【初期段階：ありのままに状況や感情、背景を把握しようと共に試みる】、【1対1で関わる場面：関係性における感じる違和感などを大事に思う】、【不確実性に耐え、潜在的な可能性を見出す力を育む】、【応答的な関係を積み重ね、安全な場をともに育んでいく】など、〈「家族の逆境体験をもつ人」に向き合った後〉では、【面接中の対話空間から「わたし自身」に戻る】、【社会・文化に根ざした回復プロセスの違いを認識する】などが抽出された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Soejima Takafumi, Sato Iori, Takita Junko, Koh Katsuyoshi, Kaneko Takashi, Inada Hiroko, Ozono Shuichi, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 2
2. 論文標題 Do childhood cancer and physical late effects increase worries about future employment in adulthood?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CANCER REPORTS	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cnr2.1175	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakajima S, Setoyama A, Sato I, Fukuchi T, Tanaka H, Inoue M, Watanabe K, Koh K, Takita J, Tokuyama M, Watanabe K, Kamibeppu K.	4. 巻 2
2. 論文標題 Predictors of parental distress during acute phase of pediatric hematopoietic stem cell transplantation in Japan: A multicenter prospective study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BLOOD CELL THERAPY / The official journal of APBMT	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31547/bct-2018-010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tobe Hiromi, Sakka Mariko, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 7
2. 論文標題 The efficacy of a resilience-enhancement program for mothers in Japan based on emotion regulation: study protocol for a randomized controlled trial	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Psychology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40359-019-0344-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Suzuki Seigo, Kita Sachiko, Morisaki Mayumi, Kikuchi Ryota, Sato Iori, Iwasaki Miwa, Otomo Eiko, Sekiguchi Hiromi, Hirata Yoichiro, Sato Atsushi, Sugiyama Masahiko, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 17
2. 論文標題 Nurses' perceptions regarding transitional care for adolescents and young adults with childhood onset chronic diseases	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12323	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kita Sachiko, Umeshita Kaori, Tobe Hiromi, Hayashi Mayu, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 34
2. 論文標題 Intimate Partner Violence, Negative Attitudes Toward Pregnancy, and Mother-to-Fetus Bonding Failure Among Japanese Pregnant Women	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Violence and Victims	6. 最初と最後の頁 536 ~ 547
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1891/0886-6708.VV-D-18-00093	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Oshiro Rei, Kopitz Jessica, Soejima Takafumi, Kibi Satoshi, Kamibeppu Kiyoko, Sakamoto Shinji, Taku Kanako	4. 巻 137
2. 論文標題 Perceptions of positive and negative changes for posttraumatic growth and depreciation: Judgments from Japanese undergraduates	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Personality and Individual Differences	6. 最初と最後の頁 17 ~ 21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.paid.2018.07.040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kita Sachiko, Haruna Megumi, Matsuzaki Masayo, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 26
2. 論文標題 Does Antenatal Social Support Affect the Relationships Between Intimate Partner Violence During Pregnancy And Perinatal Mental Health?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Violence Against Women	6. 最初と最後の頁 573 ~ 589
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1077801219835052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kita Sachiko, Hayashi Mayu, Umeshita Kaori, Tobe Hiromi, Uehara Nana, Matsunaga Momoe, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 10
2. 論文標題 Intimate partner violence and maternal child abuse: The mediating effects of mothers' postnatal depression, mother-to-infant bonding failure, and hostile attributions to children's behaviors.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychology of Violence	6. 最初と最後の頁 279 ~ 289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1037/vio0000245	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yonezawa Kaori、Tose Tomomi、Haruna Megumi、Sasagawa Emi、Usui Yuriko	4. 巻 42
2. 論文標題 Impact of the COVID-19 Pandemic on the Childcare of Mothers with infants under one year old	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Japan Academy of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 346 ~ 355
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5630/jans.42.346	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tobe Hiromi、Sakka Mariko、Kita Sachiko、Ikeda Mari、Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 19
2. 論文標題 The Efficacy of a Resilience-Enhancement Program for Mothers Based on Emotion Regulation: A Randomized Controlled Trial in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 14953 ~ 14953
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph192214953	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kita Sachiko、Kamibeppu Kiyoko、Saint Arnault Denise	4. 巻 19
2. 論文標題 "Knitting Together the Lines Broken Apart": Recovery Process to Integration among Japanese Survivors of Intimate Partner Violence	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 12504 ~ 12504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph191912504	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Suzuki Seigo、Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 67
2. 論文標題 Impact of respite care on health-related quality of life in children with medical complexity: A parent proxy evaluation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Pediatric Nursing	6. 最初と最後の頁 e215 ~ e223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pedn.2022.07.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Muramoto Miyuki, Kita Sachiko, Tobe Hiromi, Ikeda Mari, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 19
2. 論文標題 The association between self compassion in the postnatal period and difficult experiences with COVID-19 pandemic related changes during pregnancy: An observational study for women at 1 month postnatal in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12494	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morisaki-Nakamura Mayumi, Suzuki Seigo, Kobayashi Asuka, Kita Sachiko, Sato Iori, Iwasaki Miwa, Hirata Yoichiro, Sato Atsushi, Oka Akira, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 10
2. 論文標題 Efficacy of a Transitional Support Program Among Adolescent Patients With Childhood-Onset Chronic Diseases: A Randomized Controlled Trial	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Pediatrics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fped.2022.829602	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tobe Hiromi, Soejima Takafumi, Kita Sachiko, Sato Iori, Morisaki-Nakamura Mayumi, Kamibeppu Kiyoko, Ikeda Mari, Hart Craig H., Emori Yoko	4. 巻 25
2. 論文標題 How participating in a group-based anger management program changed Japanese mothers' cognition, attitude, and behavior: A pre-post pilot study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Mental Health & Prevention	6. 最初と最後の頁 200228 ~ 200228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.mhp.2021.200228	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sato Iori, Soejima Takafumi, Ikeda Mari, Kobayashi Kyoko, Setoyama Ami, Kamibeppu Kiyoko	4. 巻 6
2. 論文標題 Reliability and validity of the Japanese version of the Pediatric Quality of Life Inventory Infant Scales	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Patient-Reported Outcomes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41687-022-00416-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本 淳, 副島堯史, 上別府圭子	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症の流行やそれに伴う面会制限によって看護師が家族に関わる際に抱く困難とその対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 家族看護学研究	6. 最初と最後の頁 15~29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計18件(うち招待講演 3件/うち国際学会 11件)

1. 発表者名 Mayumi Morisaki-Nakamura, Seigo Suzuki, Asuka Kobayashi, Miwa Iwasaki, Yoichiro Hirata, Atsushi Sato, Sachiko Kita, Iori Sato, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 Association between transition readiness and characteristics of adolescents with chronic diseases in Japan
3. 学会等名 The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上別府圭子
2. 発表標題 小児がんをもつ子どもと家族のトランジションの支援
3. 学会等名 第66回日本学校保健学会 学術大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上別府圭子
2. 発表標題 母乳・授乳にまつわる幻想とリアル
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tobe H, Sakka M, Kamibeppu K
2. 発表標題 Resilience enhancement program for mothers focused on emotion regulation of anger: A randomized controlled trial in Japan
3. 学会等名 International Family Nursing Conference (IFNA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kibi Satoshi, Qandeel Minal, Takafumi Soejima, Rei Oshiro, Koichi Hiraki, Kiyoko Kamibeppu, Kanako Taku
2. 発表標題 Influences of the Type and the Experienced Form of Trauma on Posttraumatic Growth
3. 学会等名 Annual Convention of American Psychological Association (APA) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米澤かおり、戸瀬知実、笹川恵美、臼井由利子、春名めぐみ
2. 発表標題 COVID-19感染拡大期における新生児を抱えた母親の体験
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会・Web学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 戸瀬 知実, 臼井 由利子, 米澤 かおり, 笹川 恵美, 春名 めぐみ
2. 発表標題 多胎児家庭が産後に利用できるサービスの認知度と利用の関連要因
3. 学会等名 第41回東京母性衛生学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miyamoto Y, Moriyasu N, Miwa A, Tokushige A, Ishida T, Morita Y, Kotake R, Inagaki A, Asaoka H, Sudo M, Tokushige M.
2. 発表標題 How people with mental health difficulties want to be treated by those around them: a qualitative analysis of illness narratives.
3. 学会等名 The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (EAFONS 2023). (Tokyo) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 吉備 智史, 樋渡 光輝, 日高 もえ, 松田 美智代, 上別府 圭子
2. 発表標題 COVID-19流行下における小児がん経験者の家族機能 Family APGARの因子構造から見た一考察
3. 学会等名 第20回日本小児がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉備 智史, 樋渡 光輝, 日高 もえ, 松田 美智代, 上別府 圭子
2. 発表標題 COVID-19流行下における小児がん経験者の知覚する過保護的な被養育態度 尺度の因子構造から見た一考察
3. 学会等名 第20回日本小児がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上別府圭子
2. 発表標題 患者から学ぶ 家族から学ぶ
3. 学会等名 第20回日本小児がん看護学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1 . 発表者名 H. Tobe, M. Ikeda, T. Soejima, S. Kita, I. Sato, M. Morisaki-Nakamura, K. Kamibeppu, C. Har, Y. Emori
2 . 発表標題 Effectiveness of a Group-based Anger Management Program in Improving Anger Expression among Japanese mothers
3 . 学会等名 The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 M. Muramoto, S. Kita, H. Tobe, K. Kamibeppu, M. Ikeda
2 . 発表標題 SELF-COMPASSION AND DIFFICULT EXPERIENCES AMONG ONE-MONTH POSTNATAL WOMEN IN JAPAN DURING THE PERINATAL PERIOD UNDER COVID19 PANDEMIC: A CROSS-SECTIONAAL STUDY
3 . 学会等名 The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Mayumi Morisaki-Nakamura, Hiromi Tobe, Mari Ikeda, Kiyoko Kamibeppu
2 . 発表標題 Parental factors affecting children's transition from pediatric to adult healthcare systems: A scoping review
3 . 学会等名 The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Miyuki Muramoto, Sachiko Kita, Hiromi Tobe, Mari Ikeda, Kiyoko Kamibeppu
2 . 発表標題 Evolutionary concept analysis of maternal self-compassion
3 . 学会等名 The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1. 発表者名 Shohei Nakajima, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 Assessments of patient-caregiver social support, family relationship, and quality of life following hematopoietic cell transplantation in out-patient clinics
3. 学会等名 The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Rei Oshiro, Masahiko Tanabe, Keiichiro Tada, Junko Takei, Hideko Yamauchi, Youko Warita, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 Post-traumatic growth and cancer-related communication among adolescents having mothers with breast cancer
3. 学会等名 The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sawo Imai, Kiyoko Kamibeppu
2. 発表標題 Postpartum depression and its association with social support among foreign mothers in Japan at 3-4 months postpartum
3. 学会等名 The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	春名 めぐみ  (Haruna Megumi)  (00332601)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・教授   (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	宮本 有紀  (Miyamoto Yuki)  (10292616)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・准教授    (12601)	
研究分担者	佐藤 伊織  (Sato Iori)  (20622252)	東京大学・大学院医学系研究科(医学部)・講師    (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関